

学習者の特別なニーズと英語教育における学習支援・指導

— 観察項目表を使っての学習者把握から —

佐藤 玲子：明星大学教育学部

山口 真佐子：桜美林大学健康福祉学群

林田 宏一：一般社団法人あかつき心理・教育相談室

会田 信子：大田区立入新井第四小学校

大槻 友紀：明治大学大学院（大学院生）

川崎 育臣：大阪府和泉市立和気小学校・大阪教育大学大学院生

四方堂 欣美：横浜市立子安小学校

松津英恵：東京学芸大学附属竹早中学校

三田祐太：青梅市立第五小学校

本研究はJSPS基盤研究C(JP19K00861)2019-2022の助成を受けた研究の一環です。

於：JES関東・埼玉大会

本発表の目的

1. 学習者理解・把握のための観察項目表の開発

自立活動区分「環境の把握」から観察項目を作成
研究の目的,方法,観察項目作成手順について
現在の到達点と課題

2. 特別なニーズへの英語学習支援・指導

*一斉指導での配慮・個別での支援

観察項目表・授業観察記録を使った授業実践報告

1. 開発した 観察項目表について

開発した観察項目表について

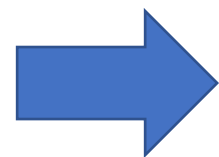
- 教室内という場で、道具を必要とせず、時間もさほどかからない
- 教師の観察結果から、大まかな問題を把握する
- 特別支援学校学習指導要領「自立活動」「環境の把握」が観点
- 個々の教師の力量だけでなく、問題を把握する指標に

子どもの心や行動の背景を考える共通の手掛かりにしたいと願う

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編

通級による指導にあたっては、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の6区分27項目の内容を参考…（略）
障害の状態等の的確な把握に基づいた自立活動における個別の指導計画を作成し…（略）指導を展開する

教育的支援ニーズのある児童生徒



特別支援学校学習指導要領「自立活動」の観点から支援

自立活動 「環境の把握」

(下位項目 5)

なぜ、自立活動 環境の把握か

- 1 保有する感覚の活用に関すること
- 2 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること
- 3 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること
- 4 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること
- 5 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

教室内で安心して、主体的に学びに向かうためのベースとなる領域である

【発達段階】

自立活動
環境の把握



積み上げていく

誕生後、脳の中で
感覚情報を交通整理
(調整) していく機
能が発達する

中枢神経系が成熟す
るに伴って
その場の理解、
その場・その状況に
あわせる力が育つ

適応行動を学習して
いく。

★原始反射は家で例えたら土台

統合ヒーリングKinesiology・エネポート

障害のある子供は、この調整がうまくいかないことがある

学習の過程は、
学習内容に関連する情報の入力⇒脳内の処理⇒出力から成りたつ

- * 上手く構音（発声のために音を作ること）ができないと、
発声や発語（出力）が困難
- * 運動・動作の困難があって、目と手の協応操作や微細な指の動きがうまくいかないと
日常生活動作（着替え、食事など）が困難
他者に働きかけたり、かかわりあったりが困難
- * 知覚－運動や視知覚認知(入力) に問題があると、
教科学習が困難

子どもは、思いはあるけれど、そのことを他者に伝わるように伝えられないもどかしさを抱えていることが多い。

推理する,文字の読み書き
抽象的な理解,目的の遂行
自己コントロール,自信,教科学習

興味や関心,話ことば
注意の集中や持続,情緒の安定

目と手を協応させた動き,模倣
身体の協調運動,運動企画

座る,手を使う,立ち,歩き,移動する
固有覚 筋肉,骨,関節が育つ,安定した姿勢がとれる

眼球の運動,吸う,触れる心地よさ,バランス **前庭覚**
視覚・聴覚・触覚・固有覚・前庭覚・味覚・嗅覚

自立活動
環境の把握
の領域に
つまずきが
ある可能性

ツール作成の手順

(1) 文献研究

感覚が人間の学習行動に及ぼす影響について

- ・ 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（平成29年3月）
- ・ 日本語版SP感覚プロフィール
- ・ WISC-IV 等

(2) 質問項目の構造の検討(質問項目数、形式)

(3) 質問項目試案の作成・検討

(4) 質問項目の配列・修正

(5) 実施、分析、問題点の再検討 ⇒ 今年度

刺激の感覚処理の問題と感覚情報の統合・処理の問題を見立てる検査として

- ・ SP(Sensory Profile)感覚プロフィール
- ・ WISC-IV

をとりあげた

SP(Sensory Profile)感覚プロフィール：

Winnie Dunn, (日本版監修)辻井正次(2015)

子供の行動の問題と感覚処理の困難性との関連
をみる標準化された尺度

WISC-IV：

個人内の発達の様相を測定する知能検査

全検査(FISQ)と4つの指標,言語理解指標(VCI)、
知覚推理指標(PRI),ワーキングメモリ指標(WMI)
処理速度指標(PSI)とそれぞれの下位項目で構成

観察項目の検討

自立活動「環境の把握」4項目,WISC-IVの4つの指標,日本版SPの3つの分類がそれぞれ測定しようとしている能力にあてはめて類型化

類型化した内容を、言語化し,学習場面で表れやすい行動と生活場面で表れやすい行動に分類,観察の観点として整理し,観察項目とした

→昨年度は5件法で評価したが、「まれにある」と「時々ある」の違いが分かりにくいこと、同様に「毎日」と「毎時間」の違いが取りにくいとの観点から「ない」「時々ある」「毎日ある」の3件法での評価に。

→学習場面 26項目 生活場面 17項目

表2

作成した観察項目(3件法一部抜粋)

パイロット版

学習場面と生活場面における「感覚の問題」についてのチェック項目			
対象者の名前：		記入日	年 月 日 記入者：
		対象者との関係：	
お子様の様子を観察し、下記の配点に従って該当する箇所にチェックをいれてください。			
1. ない		2. まれにある	3. 毎日ある
No.	学習場面で表れやすい行動		
1	極端に目を近づけて本を読む		
2	「ねこ」を「ねと」と言うなど、単語の発音に誤りがある		
3	消しゴムや鉛筆をよく落とし、見付けられないことがある		
4	消しゴムなどを触ったり並べたりして常にいじっている		
5	授業中、姿勢を保てず、崩れやすい		
6	合唱や合奏の場面で、耳をふさいだり、室外へ出たりして参加しない		
7	指示が複数になると忘れてしまう		
8	黒板の文字を写さない。写しても他児の2倍以上の時間がかかる		
9	書いた文字が読みづらい。		
10	線からはみ出して色を塗ったり、字を書いたりする		
11	文字や数字の大きさや形が極端に整わない		
12	文字の細かい部分を見間違えたり、書き間違えたりする		
13	教科書の音読で行を読み飛ばすことがある		
14	単語や音節を正しく区切って文章を読めない		
15	ピアノの鍵盤やリコーダーの穴を正しく指で押さえられない		
16	モデルがないと絵や図が書けない。あっても書き出すまでに時間がかかる		
17	その日にあったことを日記や作文に書けない		
18	長文の読み取りができない		
19	簡単な暗算ができない		
20	年齢相応のひらがな、片仮名文字、漢字に書き誤りが多い		
21	教師の話の内容のポイントがつかめない		
22	物語文で登場人物の心情が理解できない		
23	自分の気持ちを言葉で他者に伝えられない		
24	体験したことを相手に分かるように伝えられない		
25	見たり、聞いたりした言葉の意味が分からない		
26	ひらがなや片仮名、漢字に年齢相応に読めない文字が多い		

これからの研究の焦点

観察項目は、先生方の実態把握に役立つことができるか
個別の指導計画作成に生かすことができるか

学習者の教育的ニーズに対応した授業づくりに生かせるか
見えてきたことから学習環境をいかに調整できるか

2. 特別なニーズへの英語学習支援・指導 一斉と個別での支援・指導

一斉指導と個別での支援・指導

- ・トップダウンのアプローチとボトムアップのアプローチ

授業・活動

個のニーズに応えられる授業作り

*ユニバーサルデザイン性の高い

授業計画や活動、教材・教具

*学習環境の調整



教師の
かかわ方

言葉かけが大切

- * 児童生徒の気づきを大切したやり取り
- * 良好な関係の維持、不安の取り除き
- * 自立した学習支援のための言葉かけ



実践報告
1

大槻 友紀

観察項目を使った実践

大槻友紀 明治大学大学院（大学院生）

観察対象

- 期間：2021年5月から7月
- 対象：小学校5年生児童
- 実践者：英語講師（複数校を掛けもちで英語のみ担当）
- 実践形態：学級担任不在で主に実践者の単独

- 対象児童は授業中繰り返し支援を要する児童
5学級計125名から9名

初期対応

学習支援

- ペアワーク最中に個別に語彙の確認
- 支援に入ったALTに対して、「この人じゃ通じない！！」
カッとなる
- 「ここがわからないの？」

友達の態度にハッとする


気持ちよく学習できる環境づくり

観察項目を参考に支援を検討

学習面のチェックが少なく、生活面の得点と大きな開きがでました。毎日みられるとチェックのついた項目は、触覚、固有覚などからの感覚刺激の処理に何らかの困難を抱えていることを示しています。注意を向けるべきものに注意を向けたり、注意の集中を持続させることが難しい様子がみられます。場の状況を読むこと、他者の気持ち进行想像することに困難があり、対人関係にトラブルの多いことが読み取れます。自閉症の特性を示していると考えられます。

- ①個人で取り組みゲーム性のある活動：アルファベットカー並べ
単語カード集め
- ②ICT活用

観察項目を使用して

-  学力の問題か、生活面（コミュニケーション面）に起因する問題
行動か推察することができた

<時間講師>

- ・ 児童の個人情報アクセス制限
- ・ 担任との情報共有時間確保の限界
- ・ 年70回での関係づくり



観察項目で事前準備

実践報告
2

会田 信子

観察項目を使った 実践

大田区立入新井第四小学校
会田信子

観察対象

- 期間：1学期
- 対象：小学校1年生児童
- 実践者：HRT
- 実践形態：ALT(T1), HRT(T2)
- 対象児童：YK
- 特別支援員：なし

① 観察項目表を使ってみて気づいた点

- 学習場面で表れやすい行動に多くチェックがついた。
- その中でも、
 2. 「ねこ」を「ねと」というなど、単語の発音に誤りがある。
 8. 黒板の文字を写さない。写しても他児の2倍以上の時間がかかる。
 10. 線からはみ出して色を塗ったり、字を書いたりする。
 16. モデルがないと絵や図が書けない。あっても、書きだすまでに時間がかかる。
- に着目し、

②外国語活動の一斉授業の中で、個への対応をどのようにしたか。

- 活動に遅れている時:
活動に応じて回って、声をかけるようにした。
- 声を出す場面:
ALTの指示を伝え、一緒に言ったり、言い方を伝えたりした。
- 書く活動:
指示をもう一度伝えたり、単語を繰り返し言ったりした。
- 発言する場面:
わかってあげられない場面があったが、気を付けて聞き取るようにしていた。
- 環境の調整: 座席の位置

実践報告
3

三田 祐太

適切な指導を行うために

～観察項目表の結果から読み取れる適切な指導法～

青梅市立第五小学校

三田祐太



一斉指導をしながら個別指導を意識する

年間指導計画 単元指導計画 週案

一斉指導を行うための準備



A子さんは前回取り組みが早かったから2枚プリンを取組んでもらおう。

B君は文章で説明することが好きだから原稿用紙を用意しておこう。

A子さん

Bくん

C美さん

D男くん

C美さんはイラストで説明することが得意だから画用紙を用意しよう。

D男くんは最後までできないと嫌がるから今日の放課後に個別に時間をとってあげよう。



一斉指導をしながら個別指導を意識する

年間指導計画
単元指導計画
週案

一斉指導を行うための

児童ひとりひとりの
活動内容を考える

観察項目表の活用

B君は文章で説明
することが好きだ
ら原稿用紙を用
意しておこう。

A君は
回取
かった
リンを
取組んでおこう

が
課
を

児童の気持ち → 観察項目表では

他からの賛同を
得られることが
少ない

- 9 書いた文字が読みづらい
- 1 7 その日にあったことを日記や作文に書けない
- 2 2 物語文で登場人物の心情が理解できない
- 2 3 自分の気持ちを言葉で他者に伝えられない
- 2 4 体験したことを相手に分かるように伝えられない
- 2 5 見たり、聞いたりした言葉の意味が分からない
- 2 8 一つの課題や活動を最後までやり遂げることができない
- 3 8 教師の指示を聞いても、すぐに行動せず周りを見てゆっくり動き出す

児童は自分の考えをもつことに困難がある。思いを引き出すきっかけを作ることが大切。

例えば・・・

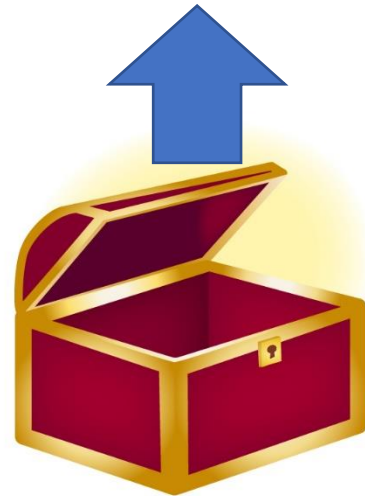
自分の考えをアウト
プットするための支援

EX：選択肢を用意する

観察項目表を使うことで事前に児童の特性を把握することができたり、次の指導に役立てることが出来る。



観察項目表



実践報告
4 (中学校)

松津 英恵

観察項目表(KH)

- 観察項目表43項目，3件法（2:まれにある，1:ない）

(1) 学習場面：26項目中，5項目が2，21項目が1

- ④ 消しゴムなどを触ったり並べたりして常にいじっている
- ⑥ 合唱や合奏の場面で、耳を塞いだり、室外へ出たりして参加しない
- ⑩ モデルがないと絵や図が描けない、あっても書き出すまでに時間がかかる
- ⑪ その日にあったことを日記や作文に書けない
- ⑫ 長文の読み取りができない

(1) 生活場面：17項目中，1項目が2，16項目が1

- 注意されたり、否定されたことを受け容れられない

観察項目表(KH)からの所見

- ・ほとんどの項目に1（ない）、2（まれ）がわすかですので、どちらかということと学力不振による動機の弱さや自信のなさが大きいようにも思えます。

授業記録(KH)

配慮点：	当該の生徒については、欠席も時々あり、他の生徒が課題をノートに書いてきているときに、その生徒だけ書いていないということもある。他の生徒のノートを確認する間に書くように指示をすると、書いて見せに来る所もある。また授業に普通に出ていても、教科書やノートを持参していないことも何度かあった。
児童生徒の反応：	ノートの書いていないので、待っている間に大至急書くように指示すると、指示通り書く。また教科書・ノートを持参しないことについて、よく聞いてみると「なくした。」と答えたときもあった。「いつからなくなったのか。」などさらに聞いてみると、結局「家にあるかもしれない。」ということになり、その後出てきたようである。
うまくいった点：	他の生徒と同じようにできないことに対して、責めずにその生徒の言い訳を聞きながら、本人なりに努力したことや心がけたことなどを認めてほめると素直に取り組む。
あるいは	
うまくいかなかった点：	こちら粘りながら指導すればどうにか指示されたことができるが、言われなくても自ら取り組むという段階には至っていない。

一斉指導と個別での指導

一斉指導では

基本的にあくまで他の生徒と同じように指導しますが、学習全般で伸び悩んでいるところがある。



指名するとき、比較的答えられる、すぐに対応できるもの等、難易度について配慮はするようにしています。

- 集中が途切れていることも多いので、リピートであっても、最初に指名したときは聞き返し、他の生徒を指名して十分聴くことをしてから、指名してやっとできるという状態です

個別指導では

- 個別活動中や家庭学習の実施状況の確認作業での机間指導の際、全員に対し、個別指導を行います。

そのときに居眠りをしている、また家庭学習の課題をやっていない、教科書やノートを持参していない等のことがあっても、



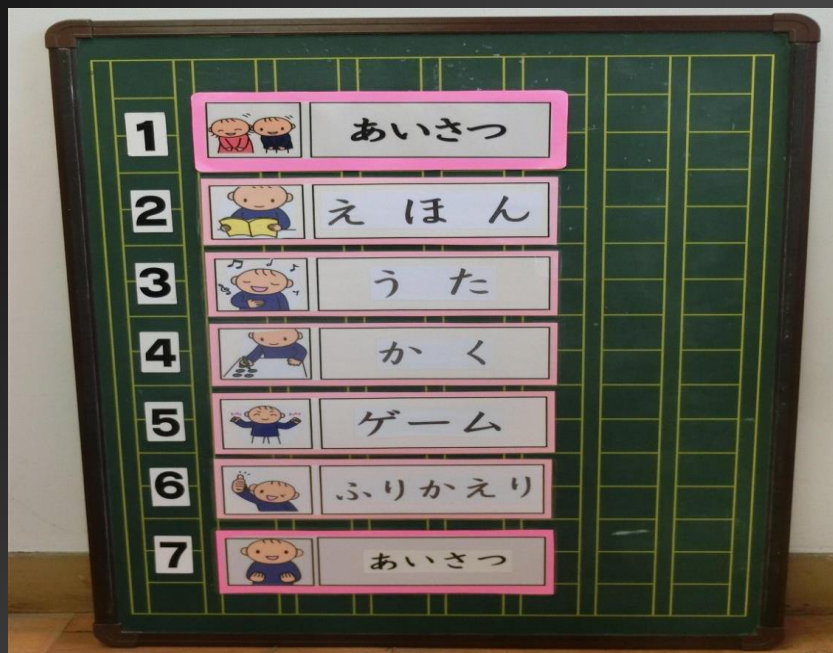
叱りつけずにとりあえずいいわけを聴く、その場でできることは「今やりなさい。」のように指示をしています。

- 関係が損なわれるとその後の指導は上手くいかないので、粘り強く指導するようにしています。

実践報告
5

川崎 育臣

自立活動 外国語活動 学習指導略案



自立活動 外国語活動 学習指導案略案

1 日時：令和3年5月17日（月）・21日（金） 第3時限 10：45～11：30

2 場所：図書室

3 学習目標

①曜日を英語で言えるようになる。

②アルファベットに親しむ。

4 評価

・曜日の歌を体の動きをしながら歌うことができたか。


5 内容

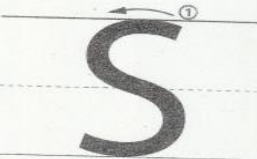

時間	学習内容	児童の活動	準備物
10:45	(1)あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と英語で挨拶をする。 授業の流れをホワイトボードで確認する。 曜日の歌を英語で歌いながら、体を動かそう。(本時のめあて) 	<ul style="list-style-type: none"> 絵/文字カード (happy/fine/tired/sleepy/hungry/sad) ホワイトボード 時間割
10:47	(2)絵本 "THE VERY HUNGRY CATERPILLAR" 「はらべこあおむし」	<ul style="list-style-type: none"> 英語の絵本の読み聞かせを聴く。 曜日を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本
10:55	(3)歌 "The Days of the Week"	<ul style="list-style-type: none"> "The Days of the Week"を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> CD デッキ/CD 絵/文字カード (Sunday/Monday/Tuesday/Wednesday/Thursday/Friday/Saturday)
11:03	(4)作る・書く	<ul style="list-style-type: none"> フォニックスの「S」を学習する。 モールで「S」を作る。 ワークシートに「S」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> モール ワークシート「S」
11:10	(5)ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> 絵/文字カードを使って、曜日を聞いて指差しする。 (個人→ペア) 	<ul style="list-style-type: none"> 絵/文字カード (Sunday/Monday/Tuesday/Wednesday/Thursday/Friday/Saturday)
11:22	(6)振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートを書く。 曜日の歌について感想を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシート
11:28	(7)あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> 英語と日本語で挨拶をする。 	

学習場面と生活場面における「感覚の問題」 についてのチェック項目 ワークシート「S」


学習場面と生活場面における「感覚の問題」についてのチェック項目
 対象者の名前： 記入日 年 月 日 記入者：
 対象者との関係：
 お子様の様子を観察し、下記の配点に従って該当する箇所にチェックをいれてください。
 1. ない 2. まれにある 3. 毎日ある



No.	学習場面で表れやすい行動	1	2	3
1	極端に目を近づけて本を読む			
2	「ねこ」を「ねと」と言うなど、単語の発音に誤りがある			
3	消しゴムや鉛筆をよく落とし、見付けられないことがある			
4	消しゴムなどを触ったり並べたりして常にいじっている			
5	授業中、姿勢を保てず、崩れやすい			
6	合唱や合奏の場面で、耳をふさいだり、室外へ出たりして参加しない			
7	指示が複数になると忘れてしまう			
8	黒板の文字を写さない。写しても他児の2倍以上の時間がかかる			
9	書いた文字が読みづらい。			
10	線からはみ出して色を塗ったり、字を書いたりする			
11	文字や数字の大きさや形が極端に整わない			
12	文字の細かい部分を見間違えたり、書き間違えたりする			
13	教科書の音読で行を読み飛ばすことがある			
14	単語や音節を正しく区切って文章を読めない			
15	ピアノの鍵盤やリコーダーの穴を正しく指で押さえられない			
16	モデルがないと絵や図が書けない。あっても書き出すまでに時間がかかる			
17	その日にあったことを日記や作文に書けない			
18	長文の読み取りができない			
19	簡単な暗算ができない			
20	年齢相応のひらがな、片仮名文字、漢字に書き誤りが多い			
21	教師の話の内容のポイントがつかめない			
22	物語文で登場人物の心情が理解できない			
23	自分の気持ちを言葉で他者に伝えられない			
24	体験したことを相手に分かるように伝えられない			
25	見たり、聞いたりした言葉の意味が分からない			
26	ひらがなや片仮名、漢字に年齢相応に読めない文字が多い			


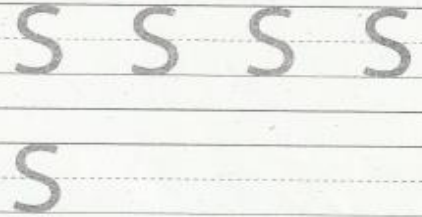
Sunday 

name (なまえ)

Sunday 

name (なまえ)


活動記録



活動記録				
日付：	2021年	5月	17日	月曜日
記録者：	川崎 育臣			
学年：	1年生～6年生	男子	16名	
		女子	5名	
観察対象児童	特別支援学級在籍児童			
活動の目的：	①曜日を英語で言えるようになる ②アルファベットに親しむ			
活動の内容：	①はじめのあいさつ ②絵本"THE VERY HUNGRY CATERPILLAR" ③歌"The Days of the Week" ④作る・書く 「S」 ⑤ゲーム「カードタッチ」 ⑥振り返り ⑦おわりのあいさつ			
配慮点：	・3人用の長机に2人ずつ座らせ、真ん中を空けソーシャルディスタンスを意識させた。同じ机の2人は、違う学年になるようにし、異学年交流ができるようにした。 ・介助員さんには、出来るだけ子ども同士で助け合えるよう声掛けと見守りをお願いした。			
児童生徒の反応：	・"How are you?"自分の気持ちを英語で伝えられた。 ・読み聞かせは、All English の中で、低学年も内容を理解できている子どももいた。 ・曜日カードは、イラストと単語を合わせて覚えようとする子どもがいた。「月の絵 Monday」「火の絵 Tuesday」 ・ゲーム方式で何度でも繰り返すことで自然と覚えることができた様子だった。			
うまくいった点：	・異学年での座席配置にしたこともあり、高学年が低学年に教える場面が多くみられた。 ・ALTの先生と一緒に発音、発話することで、正しい音で言うことができていた。 ・はらぺこあおむしの様々な言語の本に興味を持っていた。 ・モールでアルファベットを作ることで、Sの文字に親しめた。			
うまくいかなかった点：	・ALTの英語だけのカード取りゲームの説明は難しいと感じた子どもが多く反応が鈍かったため、ALTが日本語で説明をする場面もみられた。 ・モールで作った「S」をワークシートに貼る時に向きが反対になっている子どもがいた。			

實踐報告
6

四方堂 欣美



英語教育における学習者の 多様性に対応したユニバーサルデザインの 足場架けモデル構築

横浜市立子安小学校

四方堂欣美

英語教育における学習者の 多様性に対応したユニバーサルデザインの足場架け モデル構築

○研究方法

日常のクラスにおける外国語科の授業の中で、子ども達の困り感や願い、達成感を振り返りカードで読み取り、フィードバック形式で段階を追って進める。

○クラスアンケート&観察項目でのチェックを生かす

クラスの現状と、本研究における観察項目を使い、児童の思考をもとに困り感に寄り添う。

○モジュールの活用～ステップアップの取り入れ方についての考察～

スモールステップ⇔全体へ共有⇔知識・思考の広がり⇔スモールステップ

どうしたらいいのかなあ・・・えっと・・・



第1時の様子



ドイツやイ
タリアは
ないのか
な..

国ってあれだ
け？



第2時 モジュールタイムを使って

- ▶ クイズの決まり・・・
- ▶ 1、ヒントは3つまで
- ▶ 2、その国の有名な物。
- ▶ 3、クイズが終わったら、ありがとうを言う（その国の言葉で！）。



友だち同士でアドバイスする



第3時・・・実際の様子から クイズで行きたい国をつたえよう



伝えられないことができてきてしまった

なんていって
いかわかん
なかった。



イライラしたり、思わず見せ合ったり…。ここで、AETの先生から
ジェスチャーもどんどん使おう！と提案。



言うのが自信ないか
ら見せちゃった。



第4時

実際の映像

I like a cake.
I like made
chocolate.
—ジェスチャーから—
This ! This! Look!
I like Europe.
Oh, No. It's France



振り返りから・・・初めて、楽しいって思えるところだった。また、こんな風にやってみたい。伝わるってうれしい。聞いてくれて、うれしい。

Oh, you like a
Cake.

え！chocolate作れるの？知らなかった
...。どこの国だろう・・・？

ジェスチャーを見て
え？ヨーロッパ？
It's England.

Oh, France !

今回の観察項目表データから

林田宏一

あかつき心理・教育相談室

このようなアセスメントツールで 必ず問題になること

観察機会がないために、評価が
できない項目が出てきてしまう。

評価できない場合の対処－その他のツールとの比較

(Vineland-Ⅱ)

- わからない場合は、2点中の1点をつける。ただし、1下位領域あたり、3つ以上、評価できない項目が出た場合は、その下位領域の解釈はできない。

(ASIST学校適応スキルプロフィール)

- わからない場合は、0点をつける。そのまま採点、解釈可。

今回の試験使用に おいても...

- 9件のデータを取ったテスターで、全9件で評価ができなかった項目があったデータが得られた。
- この9件のデータの結果とテスターのコメントを比較してみたので、簡単に報告する。
- 今回はASIST学校適応スキルプロフィールの方法に倣って、評価できなかった項目の素点をゼロとして、得点を算出した。

調査データの一部のご紹介

- テスター：1名、件数：9件
- 評価できなかった項目数
- →75項目／43×9＝387中
- →欠損データの比率＝19.4%

	合計(max86)	学習(max:52)	生活(max:34)
715_Y_F	25	6	19
715_T_M	37	26	11
715_S_M	25	22	3
715_R_F	30	27	3
716_Y_M	32	16	16
716_S_M	36	16	20
716_M_F	31	28	3
716_E_M	21	14	7
702_R_M	28	19	9

学習(715_Y_F)→学習上の問題は少ない。

生活(715_S_M) (715_S_M) (715_S_M)→生活上の問題は少ない

課題

- 今後は、HRT以外の指導者が使い易いように項目をさらに精査
- 個々の特別なニーズに応じた学習支援・指導モデル構築と、PDCAのA実施のために、さらなる具体的事例の収集
- 観察項目表の各項目・それぞれの感覚の問題に対応した事例集の作成およびユニバーサルデザインの指導・支援モデルの構築

引用・参考文献

- 今井むつみ, 針生悦子(2014). 『言葉をおぼえるしくみ 母語から外国語まで』. ちくま学芸文庫.
- 上田茜, 岩永竜一郎(2015). 『学校版・感覚運動アセスメントシートの通常学級児のデータに基づく因子分析：感覚系の結果（特集 JAPAN感覚処理・行為機能検査に関する研究）』（感覚統合研究）, 15, 41-50.
- 大谷みどり(2018). 『科研研究費助成事業成果報告書 英語教育における特別な支援の在り方—小中高大の連携を通して』.
- 加賀田哲也, 村上加代子, 伊藤美幸, 川崎育臣, 森田琢也, チェン敦子(2015). 「英語授業における特別支援に関する調査」『JES Journal Vol.15』, 142-154.
- 久埜百合, 粕谷恭子, 岩橋香代子(2008). 『子どもと共に歩む英語教育』. ぼ〜ぐなん.
- 語研ブックレット7編集委員(2018). 『小学校英語 3～絵本を活用した授業づくり～』. (一財)語学教育研究所.
- 語研ブックレット3編集委員(2010). 『小学校英語～子どもの学習能力に寄り添う指導方法の提案～』. (一財)語学教育研究所.
- 佐藤玲子(2021). 「小学校でSmall Talkを聞かせる時に気をつけたいこと」『英語教育6 Vol.70 No.3』, 8-8. 大修館書店.

引用・参考文献

- 辻井正次(監修)(2015).『日本版感覚プロフィールSP』. 日本文化科学社.
- 堀 公俊(2018).『ファシリテーション入門(第2版)』. 日本経済新聞出版社
- 村上加代子(2019).『みんなにわかりやすい小・中学校の授業づくり 目指せ！英語のユニバーサルデザイン授業』. (株)学研教育みらい.
- 文部科学省(2017).『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』.
- 山口真佐子, 佐藤玲子, 林田宏一(2021).「発達障害児の感覚処理の困難の評価ツールー自立活動「環境の把握」を観点とする観察項目作成の試みー」『明星大学明星教育センター研究紀要第11号』1-8.
- 山田章(2017).『教室で使える発達の知識』クリエイツかもがわ.
- 吉田晴世,加賀田哲也,泉恵美子(2015).『英語科・外国語活動の理論と実践』. あいり出版.
- Cameron, L. (2001). “Teaching Languages to Young Learners “. Cambridge Language Teaching Library.
- Larsen-Freeman, D., Anderson, M. (2011). “Techniques & Principles in Language Teaching”. Oxford University Press.

Thank you for listening!

佐藤玲子: reiko.sato@meisei-u.ac.jp